



心、で気持ちを伝えられることを学んだと話す研修生

次代を担う中学生が カナダでホームステイ研修

HighLight
今月の
注目
1

7月31日から10日間、本町中学2年生の15人がカナダ・バンクーバーでホームステイを行った。それぞれの思いを胸に異国の地へ飛び出した生徒たち。何を考え、何を得たのか。次代を担う15人の生徒が貴重な体験を語る。

教

育委員会は、次代を担う国際性豊かな青少年を育成することを目的に、中学生海外英語研修を開催しました。参加したのは、中川根中10人と本川根中5人の計15人の生徒。同行した引率教諭や教育委員会事務局職員からは、生徒たちは期待と不安を抱きながらも10日間を無事に過ごし、大きく成長する姿を見ることができたと報告がありました。

「英語圏で生の英語に触れることが一番」と話す杉山教育長

国内外において、たくましく生きていける人材を育てることを教育理念に掲げる杉山教育長もカナダ研修に同行、研修現場に立ち会い、教育事業の検証を行いました。

その中でサレー市内の中学校で英会話の学習を行ったことに触れ「熱心な二人の教師による個人指導を取り入れた授業であった。ホームステイでは、英語で会話せざるを得ず、勉強になったことと思う。やはり『英語圏で、生の英語に触れる』ことが一番である」と話しました。

また「当市は自然が豊かで、道路等にごみなどほとんどなく、大変清潔な地域であった。治安も良く、安心して生活できた」と振り返り「研修生にとって貴重な体験になったことと強く感じた」とカナダ研修の成果を述べました。



「多くの方に支えられ 充実した海外英語研修」

10日間の研修は、英語の授業だけでなく、ダンスレッスンなど多様なプログラムが用意されていました。帰国前に開かれたパーティーでは、生徒が歌やダンスを披露し、現地スタッフからは「英語も歌も素晴らしい。カナダで習ったヒップホップダンスも、パーティーのときが一番の出来栄え。ホストファミリーの方々も、とても喜んでいました」と称賛の言葉をいただきました。この称賛は、毎日一生懸命に過ごしたからこそ、生徒達に贈られたものだと思います。また、現地スタッフの方々には、充実した研修になるようにと、常に心を配ってくださいました。そして、ホストファミリーは、遠く日本を離れて心細い思いをしている子どもたちを元気づけようと、さまざまなたくましくしてくれ、夜はよく眠れるようにと気遣ってくださいました。この滞在は、多くの方々の優しさに支えられた10日間であったとも実感しています。



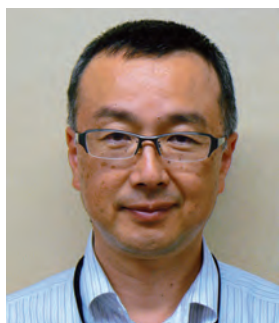
中川根中学校・引率

かつざわ
勝沢たえ子 教諭



「15人の今後の活躍に期待」

カナダの素晴らしい環境の中で、充実した研修を行ってきました。全員が元気に研修を終えて帰国でき、ほっとしています。現地の先生による授業、児童施設訪問、ダンス・サイクリング体験など、いろいろな研修を行ってきましたが、一番の研修はホームステイだったといえるでしょう。日本とは違った習慣をもつ家庭にたった一人で入り、英語だけでなくコミュニケーションをとらなくてはなりません。中学生にとって想像以上に大変なことだったはずです。しかし、親身になって接してくれるホストファミリーのおかげで、生徒が少しずつカナダの家族の一員になっていくように、私は感じました。生徒はこの研修を通して、外国の文化のおもしろさ・人々の優しさ・コミュニケーションの大切さなどを実感し、さらに、日本文化の良さ・川根本町の素晴らしさ・家族の大切さなども感じただけです。ひとまわり成長した15人の中学生、今後の活躍を期待したいです。



本川根中学校・引率

まつもと よしき
松本 芳樹 教諭